

編集後記

新しくなった「中国地域の文化」の本館展示場には「紅色観光」のコーナーがある。共産党の歴史や思想にまつわる土地や物が、観光資源として近年注目されているらしい。共産党の色は「赤」というイメージがあったので、なぜ「紅色」と呼ばれるのか不思議に感じた。中国展示チームのメンバーに聞くところによると、社会主義・共産主義を示す「赤旗」は中国では「紅旗」だし、人道支援を行う「赤十字社」は「紅十字会」だという。日本で「紅」というと、「赤」よりも少し紫がかかった色の印象があるので、同じ漢字に対する色彩感覚が、日本と中国では微妙に違うのだということであらためて実感した。

「朝鮮半島の文化」の展示場も、この春同時にリニューアルオープンしている。日本、中国、朝鮮と、同じ漢字文化圏の伝統色カラーパレットの違いを、展示品を比較して見てまわるというのもおもしろいかもしれない。東アジアのこの三つの地域の実物が同時に見ることができるのは、日本ではみんぱくぐらいではないか。
(山中由里子)

みんぱくをもっと楽しみたい 人のために—会員制度のご案内

国立民族学博物館友の会

本館展示の無料入館や特別展示の観覧料割引にくわえ、『月刊みんぱく』や会員機関誌『季刊民族学』などの定期刊行物や、毎月の友の会講演会、セミナーなどを通して多様な文化の情報を提供しています。

みんぱくフリーパス

1年間、本館展示へ何度でも無料で入館いただけます(特別展示は観覧料割引)。他にも、みんぱくを楽しむための特典がいっぱいあります。

国立民族学博物館キャンパスメンバーズ

みんぱくと大学等教育機関との連携を図り、文化人類学、民族学にふれる学びの場を提供することを目的とした会員制度です。

詳細については、一般財団法人千里文化財団までお問い合わせください。
(電話06-6877-8893 / 平日9:00~17:00)

●表紙：影絵人形「白蛇伝」の白娘子 標本番号 H0093225
地域：北京市 民族：漢

次号の予告

特集

朝鮮半島の文化(仮)

※みんぱくウィークエンド・サロンの情報は、13ページに移りました。

月刊みんぱく 2014年5月号

第38巻第5号通巻第440号 2014年5月1日発行

編集・発行 人間文化研究機構 国立民族学博物館
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1
電話 06-6876-2151

発行人 池谷和信
編集委員 山中由里子(編集長) 櫻永真佐夫 河合洋尚
庄司博史 菅瀬晶子 丹羽典生 丸川雄三
編集アドバイザー 山内直樹
デザイン 宮谷一孝 長岡綾子
制作・協力 一般財団法人千里文化財団
印刷 能登印刷株式会社

*本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館広報係に
お願いします。
*本誌掲載記事の無断転載を禁じます。



交通案内

- 大阪モノレール「万博記念公園駅」・「公園東口駅」下車、徒歩約15分。
- 阪急茨木市駅・JR茨木駅から近鉄バスで「日本庭園前」下車、徒歩約15分。
- 乗用車は、公園内の「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分。「日本庭園前ゲート」横にある民博専用通行口をお通りください。
- タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れてきます。

みんぱくホームページ

<http://www.minpaku.ac.jp/>

みんぱくフェイスブック

<http://www.facebook.com/MINPAKU.official/>

みんぱくツイッター

<http://twitter.com/MINPAKUofficial>